

デザインに貢献する心理学！

千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻 教授

日比野治雄 (ひびの はるお)

デザイン心理学とは？

デザイン心理学という名称は、心理学を専攻されている方でも耳にしたことがないかもしれません。実は、この名前の付いた研究室は、日本では千葉大学にしかありません（「デザイン心理学研究室」は商標登録してあるのです！）。このデザイン心理学研究室は、私の前任教授である故・野口薫先生と私が千葉大学工学部に1994年に設立したのが起源です。それ以来、当研究室はデザインに関わる様々な問題に対して心理学的な視点からアプローチしてきました（現在は小山慎一准教授と私の二人でこの研究室を運営しています）。

デザインと心理学はどのような関係があるのでしょうか？ちょっとお考えください。デザインは、それを創造するのも、また受容するのも人間です。ですから、デザインに関わる問題は、まさに人間自身に関わる問題です。逆に、人間が関わらないデザインの問題はないということもできるでしょう。したがって、心理学の視点からデザインに関係した問題を扱い、より優れたデザインを考えるということはきわめて自然なことなのです。

心理学でベンチャー？

心理学はとても素晴らしい学問領域だと思います。厳密な実験的手法を用いて人間の感覚や知覚のメカニズムの解明をめざす感覚・知覚心理学のような基礎的な分野

から、臨床心理学や産業心理学のようなきわめて現実的な問題を扱う分野まで、実に多様な領域があり（ただ、最近では学際的な研究も多くなり、領域の名称はあまり意味がなくなっているのも事実ですが……）、人間に関するほとんどすべてのことが扱えるからです。

この事実はデザインの問題を扱ううえでは、とても有効な武器となります。しかし、不思議なことに（同時に残念なことでもあるのですが……）、これまで心理学の知見をデザインの問題解決に利用しようという試みは、私のデザイン心理学研究室以外ではほとんど行われてきませんでした。そのため、さまざまな企業の方からのお誘いを受け、実際の製品のデザインに関する多くの問題に取り組む貴重な経験をしてきました。その中である程度の実績もあげ、それが新聞等で報道されるなど、社会的にも認知されるようになりました。ところが、大学の一研究室としてできることには限界があります。

そこで、より広くかつ柔軟に企業や社会に貢献したいとの思いから、私は当研究室で培ってきた知財（特許出願中：2011-012423号）を基礎にデザイン・コンサルティングのベンチャーを起業しました。それが、(株)BB Stone デザイン心理学研究所です。昨年3月には千葉大学より『千葉大学発ベンチャー』の称号も授与され、大学公認での活動を開始しました。

Profile — 日比野治雄

1982年、東京大学文学部心理学科卒業。1990年、Ph.D. (York Univ.) 取得。認定心理士。千葉大学発ベンチャー（株）BB Stone デザイン心理学研究所技術顧問。2000年より現職。専門はデザイン心理学。



筆者と最新の成果（ダイキン工業製エアコン「ラクエア」用新型リモコン）

このベンチャーの特徴

現在、企業活動では「エビデンス」と「数値化」ということが強く求められます。それは、デザインの領域でも同様です。ですから、私のベンチャーは、「そのデザインの明確な根拠は何か？」あるいは「複数の異なるデザインのうち、どれがどれほど優れているのか数字として示せるか？」などの企業の切実な要望に明確な回答を示すことを使命としています。この活動の新規性には大きな反響があり、多くの企業の方からご依頼を受けています（最新の成果は写真をご覧ください）。

デザインの領域では、今後ますます多様な人間に対する理解が必要となることが予想されますので、デザイン心理学には大きな期待が寄せられています。